

2022年10月発行

# CWS JAPAN NEWSLETTER NO. 73

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、  
ご理解をいただき、ありがとうございます

## 台風15号 静岡災害支援開始

2022年9月23日、台風15号が発生し、日本に接近した影響により、特に線状降水帯が発生した静岡県では24日にかけて記録的な豪雨となりました。中でも平地から山間部まで多様な地形・自然環境にある静岡市では、土砂崩れや河川の氾濫によって、市内だけで3,800世帯以上が床上浸水の被害に遭いました。その上、一部地域では、2週間も断水が続き、住宅内に流入した土砂によって汚染された住居を掃除する水も確保できなかったことから、生活再建に時間を要しています。

ACTジャパン・フォーラムの事務局を務めるCWS Japanは、発災直後から当該フォーラムに加盟する被災地の教会・団体に連絡をとり、緊急災害支援の可能性を探り始めたところ、地元の日本バプテスト連盟、日本福音ルーテル教会、静岡YWCAメンバーから支援協力への呼びかけに対して賛同を得ることができました。

こうして発災から1カ月が経過するなか、市街地では復旧が進み、災害は既に過去のこのように見えます。今回の災害の特徴として、第一に公設避難所が開設されていないこと、また、床上浸水の被害を受けた住宅が広範囲に散在していることなどがあります。それは、わたしたちが支援対象に考えている要支援者が外部者からは大変見えにくいことを意味しています。

OUR SNS IS ACTIVE!

FACEBOOK  
TWITTER  
INSTAGRAMでも  
情報発信しています！

最後のページを  
ご覧ください



写真

台風15号で被災した静岡県。  
災害ゴミ集積所に並ぶ冷蔵庫群。

"被害が大きい山間部は、  
いわゆる過疎地であり、  
単身高齢者世帯も多く、  
被災者特有の謙虚さ・遠慮が  
あり、なかなか自ら支援を求  
めにくいのが現状です"

生活困窮者世帯では一切の家財道具が水没し、二重の苦難を強いられています。行政による公的支援には限界があり、また手続きにも時間を要します。今回、特に被害が大きい山間部は、いわゆる過疎地であり、単身高齢者世帯も多く、被災者特有の謙虚さ・遠慮があり、なかなか自ら支援を求めにくいのが現状です。

そこで、平時から生活困窮者支援を行っている地元NPO法人POPOLLOとのパートナーシップにより、水没した家財道具の買い替えが困難な単身高齢者・生活困窮世帯に対して、家電や生活用品を支給するプロジェクトを立ち上げました。受益者の特定については、地元社協や包括支援センターから協力を得ながら、戸別訪問によって生活状況を確認しながら行っていきます。また、この支援活動に参加を表明しているのは、地元の関係教会・団体関係者であり、この支援を通して出会った要支援者、ボランティアとの交流は今後も地域内で継続されていくことが期待されます。



写真

パートナーシップを組むことになった  
地元NPO法人POPOLLO事務所

～家電・生活用品支給プロジェクト～

2022 台風15号被害による  
緊急支援活動 とどき隊

受付期間  
2022年10月19日～2022年11月23日

台風15号の影響で家電品や日用品が水没の被害にあった方の中には、新たに家電を買いそろえることが金銭的に難しいという方もいます。NPO法人POPOLLOとACT Japan Forumは、共働りで幅広く募金を募り、それを原資として家電や日用品の支援を行うことにしました。

対象者 → 台風15号の影響で家電が故障した  
①65歳以上の高齢者 単身世帯  
②家電を買い替える余裕のない世帯  
(ひとり親世帯や生活困窮世帯など)  
定員 → 100世帯程度を予定

申請方法 → 下段の申請用紙に必要事項をご記入ください  
emailご利用の場合は申請書の項目をこちらまで → info@npo-popolo.org

主催 特定非営利活動法人POPOLLO ACT Japan Forum  
問い合わせ先 NPO法人POPOLLO 静岡市葵区宮ヶ崎町53番  
TEL 054-254-5718 担当者携帯 090-8132-7753

申請書

氏名 \_\_\_\_\_ 住所 \_\_\_\_\_ 申請日 2022年 月 日

年齢 \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 世帯人数 \_\_\_\_\_ 人 連絡先(電話番号など) \_\_\_\_\_

申請要件(どちらかに) (1)65歳以上単身世帯 (2)家電を買い替える余裕のない世帯

(2)の場合は具体的な理由 \_\_\_\_\_

希望欄 (冷蔵庫 洗濯機 電子レンジ 掃除機 テレビ など)

第1希望 \_\_\_\_\_ 第2希望 \_\_\_\_\_ 第3希望 \_\_\_\_\_

※ 災害ボランティアセンターおよび、静岡市社会福祉協議会等の支援機関に申請情報を共有させていただきます。

台風15号被災者支援プロジェクト  
の配布用チラシ

11月末まで100世帯への支給を目指していますが、要望を受ける家電製品によっては、予算上、目標数に達することが難しいことも予想され、被災世帯数があまりにも多いことから、需要に対して供給が追い付かず、全ての生活困窮世帯に物資をお届けする資金が不足しています。そこで皆様からの温かいご支援を呼びかけます。

▶ 寄付をする ◀

actalliance  
JAPAN FORUM

CWS JapanはACTジャパン・フォーラム  
の事務局を務めています。

(文：ディレクター 牧 由希子)

# ベトナムの地すべり対策が進んでいます

2022年10月16日から21日まで、国土防災技術株式会社の防災専門家のお二人とベトナムに行って参りました。ベトナム北部では、以前から外務省NGO連携無償資金協力のスキームで、地すべりおよび洪水リスクにさらされているコミュニティの防災力向上支援をしています。その一環として地すべりの動きをモニタリングするという方法を採用しています。使うのは木材と釘のみです。丁張（ちょうはり）とって、非常に安価に作る事ができ、かつ今回非常に明快に効果も検証できたので、ご報告いたします。



写真

丁張の作り方をコミュニティに教える事業メンバー

まず、丁張は地面に固定する木材が2本、それを横に繋ぐ木の板によってできています。地すべりの危険箇所は地割れがあるなど、何かしらの予兆現象があるもので、その予兆が確認されている部分に丁張を取り付けます。例えば地割れがある場合は、それがだんだんと大きくなって、最終的に崩壊などに繋がるといった具合です。この丁張の動きをモニタリングし記録することによって、いつ・どの方向に・どれくらい地すべりブロックの動きがあるかが分かります。また、雨量データとの相関性を見ることによって、今後の動きも推測できます。



写真

実際に設置された丁張

下の写真は事業地で地すべりの危険性を認識していながらも、できるだけ自分たちが代々所有する土地に住み続けていたご家庭です。この斜面は意図的に端部が切り取られていて（ベトナムではよく行われていることだそうです）、人が住めるスペースを確保していました。ただ、地下水の影響や、切り取った端部が地すべりの動きを抑えられなくなってきたなどの理由で、この斜面の崩壊リスクは高まっていました。この写真を撮ったのが今年の6月のことです。

そして今回同じ場所を訪問した際には上記のように斜面が崩壊していました。ただ、嬉しいことに、この場所では徹底的に丁張を設置し、地すべりの動きをコミュニティ、行政、そしてCWSベトナムチームでモニタリングしていました。



写真

地すべりリスクの高い場所に住んでいた家庭。6月時点の様子。



写真

8月に崩壊した同じ場所の斜面

そして、この崩壊が起きる前に、ここに住んでいたご家族は道路の反対側に避難し、命も資産も（家は土砂に埋まってしまいました）守ることができました。国土防災技術株式会社の皆様の技術指導のもと、CWS Japanでは防災のサイエンスを人々が理解し、自分の知見としてアクションに繋げていくことが重要だと考えています。そんな想いが形になった嬉しい出来事でした。引き続き、人々の大切なモノを守る防災・減災を推進して参ります。

（文：事務局 小美野 剛）

## CWS JAPANの新しい理事メンバーの紹介

CWS Japanの新しい理事メンバーとして、この度、Katherine Rehberg氏を迎える運びとなりましたので、皆様に紹介したいと思います。

Katherine Rehberg氏はCWS米国本部のプログラム部門のVice Presidentで、CWSが事務所を置く米国、アフリカ、アジア、中東・ヨーロッパ、ラテンアメリカ・カリブ海地域におけるプログラムを監督、そしてプログラム戦略の発展と実践をリードし、すべてのCWSのプログラムがCWSのビジョンとミッションのために運営されているように指揮しています。また、CWSが既存のパートナーシップやプログラムを強化し、新たなパートナーシップを構築できるように、戦略的な方向性の模索・提示も彼女の役割です。

彼女は強制移住、難民再定住、人道支援の分野の専門家で、世界中から米国に再定住する難民を支援するケースワーカーとしてキャリアをスタートさせました。オックスフォード大学難民研究センターで難民・強制移住研究の修士号を、ジョージ・ワシントン大学で国際関係学の学士号を取得し、エジプト、スーダン、ケニア、サハラ以南のアフリカ全域で避難民コミュニティと活動してきました。



写真

新しい理事メンバー  
Katherine Rehberg氏

以下、彼女からのメッセージ・挨拶です。

As a new CWS Japan board member, I am excited to join with new and existing board members to inform CWS Japan's strategic direction and organizational oversight. CWS Japan's growing body of work and technical expertise is well-positioned to increase its impact across the Asia region and globally.



たが、勉強になりました。残念ながら、イベントは無期延期になってしまいましたが、企画段階で得られた学びが多くありました。特に、主催者と参加者両方の視点を取り入れながらイベントの準備を進めていくことと、イベントを開催する意義・到達目標が主催者側で共通認識することの大切さに気付かされました。企画の中身をこだわるだけでなく、まずより多くの方々に興味を持っていただけるような工夫も重要だと感じました。ほかにも、イベント企画を通して同じ学生インターンの同期生との仲を深められたことがとても嬉しかったです。普段お互いにオンラインで業務を行っていて、話しをする機会が少ないため、2人で企画を進めることでコミュニケーションをとる機会が増えました。2人でイベントの企画・スケジュールなどを進めたことでより一層、責任感をもって取り組みました。

8月末には、「平和」というテーマについて、様々なフィールドで活躍されている方々とウェビナーで意見交換をする機会がありました。自分と違う世代や立場にいる方々のお話を聞いたり、自分の考えを共有したりする機会は今までなかったため、貴重な経験になりました。トピックに対する自分なりの回答を考える過程で、自分がこれまで学んできたこと・経験したことを振り返る良い機会になりました。

その他にも、CWS Japanの団体紹介リーフレットのデザインに関わりました。リーフレットをデザインする際には、CWS Japanのことを知らない方でもわかりやすい文章・デザインを作成することを心掛けました。そうすることで、CWS Japanについての知識を深める良い機会になりましたし、文章作成力が向上したと感じています。また、限られた文字数・スペースで伝えるべき内容を考えることは今後の学生生活で活かせる経験になりました。

**ご高覧頂き有難うございます。次回のニュースレターは11月末の発行を予定しています。**

インターンを通して、与えられた業務をこなすことで、それが目に見える形で結果として見えてくるため、一つ一つのプロジェクトに精力的に加わるモチベーションに繋がりました。また、ともに活動しているインターンの館農さんは自分にはない強みやスキルを持っているため、日々学ぶことが多く向上心を持ち続けることができました。現役で働いている方々との活動で、同年代の学生との関わりでは味わえない緊張感を体験することができました。CWS Japanのインターンは傍観者としてではなく、主体的に動くことができるため、たくさんの学びを得て成長できました。5カ月間、大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い致します。

(文：インターン 楠 真依)

**過去のニュースレターやインタビュー記事は  
下記よりアクセス頂けます。**

**過去のニュースレターは[こちら](#)**



**特定非営利活動法人CWSJapan**  
〒169-0051  
東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館25号室

**メールアドレス:**  
public@cwsjapan.jp  
**電話:**  
03-6457-6840



**[CWSJapan](#)**



**[@Japan\\_CWS](#)**



**[cws\\_japan](#)**